
見上げる空のアジュカ-巨人の箱舟-

雨露しのぐ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

見上げる空のアジユカ - 巨人の箱舟 -

【Nコード】

N5055Z

【作者名】

雨露しのぐ

【あらすじ】

人類が宇宙へと進出すること102年。

圧倒的な”脅威”が残り少ない人類へと猛威を振るう。

脅威とは何か。そして人類の進む道とは一体……。

混迷を極める時代に青年は戦う。巨大建造物、アジユカに抱かれながら。

1 あらすじのこと考えてなかった！ってなわけでそのうち書き直すと思います。すみません。

2 『ガラ』と違って行き当たりばったりという感じでなく、あの程度修正してから投稿しようと思ってます（ガラも2章からはそのつもりです。1章は正直書き直したい部分が多すぎる）
しかしマシンの絵がないロボット小説ってどうなんだろう。
あえて抽象的に書いて想像力にお任せしちゃうとか……ダメですかね？

プロローグ

遠く、遠い空の向こうから何かが飛んでくる。

最初はただの黒点。背景の空はきれいな青と時々にごった赤、それに爆音。

棒状のなにかが近づいてくる。だんだんと。だんだんと。

そうして、ヒューンと風を切る音とともに。

……バチッ。

案外軽い音を伴いながら、手のひらが私の頬をたたく。

あまり気分のいいことじゃあないが。しかし我々人間は確かに何かしらに守られて今を生きてきた。

生かされてきた。

時には家族から。時には他人から。またある時は社会そのものから。

やたらボンヤリしてるけど、あったかい安心感。

そうした棘のない柵の中、自由を求め生きてきた、それが”人間”ってなもんだ。

そこに十分満足出来ていた。そこは満足できるだけの自由があった。

もちろん不満は言うがね。そうだろ？

守るほうは守るほうで、外に大した敵がいるわけでもない。安い

仕事さ。

人類が宇宙に進出し、時が流れること102年。

時代は混迷を極める。

今まで守る側だった奴も守られる側だった奴同様あまりにもちっぽけな存在になってしまった時代。

『脅威』により人口は減少。

草木も壊滅状態。

しまいには空まで曇ってばかりな始末。嫌になっちまうね。

柵はとう壊れ、一歩外は地雷原。ってな感じだな。

人間弱いもんでそうになると、絶望からは目を逸らし、しかし希望を探す様子もなくなる。

自由を求める？もってのほかだ。

人間疲れきつちまったら、そんなもん。責められるもんじゃない。

4

……むろんそんな時でも自由を求めるやつあ、いるにはいる。

世間じゃ冷めた目で見る奴がほとんどだけだよ。夢があつていいじゃねえか。

でも今は昔じゃあない。

そんな奴ら、平和な時代なら気付かずに馬鹿やってた連中でも、すぐに気づいちまう。気付かされちまう。

それはお守りに反発できる時代に享受出来た、貴重なお宝だつてことに。

ここでひとつ。言っとなきゃならねえ事がひとつある。

気付いちまうのは何も外からの脅威だけが原因じゃねえって事だ。

『脅威』もハッキリしている。
だがそれ以上に『守ってくれている物』がハッキリしている。
それが人の目を余計に曇らせちまうこともあるってこった。

まあ早い話、分かりやすく、そして確実に守られているんだ。
巨大建造物。
アジユカによって。

- はじまり -

” ピーーーーー ”

” ピーーーーー ”

呼び出し音が聞こえる。

ピー……。

それが3度目にさしかかろうかという時、

” ガチャ ”

「北西から反攻勢力！2機来るぞ！！」

- ????-

「ランス」

「おう、あれだ！」

二機編隊の小型マシンが背中から火を噴かせてまっすぐに突撃している。

「残ったのは俺たちだけだ、なんとしても」

「ああ少しでもいい……時間を」

焦りにも似た響きが彼らの心を満たす。

「あいつらひっ捕まえたところで情報なんてたかが知れてるがな」
ランスと言われた男はぼやく。

「それをいつちやあおしめえよ」

「格納庫？」

”ウイー……ン、ウイー……ン”

各種モニタが立ち上がる。

「ヘルナ機」

「起動確認。発進します」

パイロットが操るコクピットの操縦装置からけたたましい老人の反応が響く。

「よし、よし行け！ 阿呆どもの目を覚まさせるのだ……！」

マシンはうなりを上げる。さあ動かせ。そう急かすように。

その期待に応えるかのように自身をへレナと呼ぶ女性はマシンを走らせる。

轟音が鳴る。

攻められている。

そう、場面は攻められてあえぎ苦しむところから始まっている。

攻められるには相手が必要なんだが、まずはこちらの説明をしなくちゃならんだろう。

我らは偉大なる『国軍』。

自分たち『国軍』を追い込んでいる相手はなんとレジスタンス。

そう。

なんとまあなさけないことに我が愛しの”カレリア連合軍”はレジスタンス相手に圧倒的不利な戦況。

それが我々の置かれた状況である。

最初はそうじゃなかった。言い訳はさせてもらおう。
相手はたかがレジスタンス。

最初はむしろ、自然な流れといってもいいだろうか、攻勢だったのはこちらだ。

しかしなぜか。

当時何が起きたのか理解するのに手間取ったが、（とは言っても答えはハッキリしてるんだ）事実として今現在圧倒的敗北を間近に控えてるのは間違いなくこちら。

……いや、その前に説明しなきゃならねえことがあった。

俺たちや別にレジスタンスと戦う気なんか毛頭ないってことをだ。それどころじゃないんだな。うん。

もともとは、もっとバカみたいな敵がいて、それ相手にボコボコにされて。

そこをレジスタンスに付けこまれたってワケ。

わかりやすいだろ？

ん？そのバカみたい敵は誰だっ？……まああせりなさんな。すぐわかる。

そう、すぐわかることだ。

- 続く

プロローグ（後書き）

文章の書き方をちょっと『ガラ』から変えてみました。
こっちのが書きやすいので『ガラ』もそつなるかも？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5055z/>

見上げる空のアジュカ-巨人の箱舟-

2011年12月17日02時49分発行